PRESS RELEASE
報道関係者各位

2012 年 12 月 14 日発信

ベランダがジャングルに！
～初めての水耕栽培で出来たトマト～

大阪府高槻市在住の篠木さんは、今年の春に初めて種からミニトマトを栽培した。自宅のベランダで、雨風や、夏の強い日差しにさらされる厳しい条件下でも、篠木さんと思いが通じたトマトはスクスクと成長し、11 月末までになんと 1500 個以上の収穫があったという。

同時期に始めたポット栽培のトマトは病気にかかり夏場に枯れてしまったが、この水耕栽培で育てたトマトは病気や虫の被害もほとんどなく初心者でも簡単に栽培ができたことに驚いた様子。夏の暑い季節には凍らせて食べたり、それでも食べきれない量が採れたので、ご近所にもお裾分けしたり、お孫さんにも「おじいちゃんすごいね」と言われたと笑顔で話してくれた。ご夫婦だけでなく、家族中でトマトの栽培を楽しめたようだ。

ジャングルのように育ったトマト

鈴なりのミニトマト

これは、水耕栽培装置ハイポニカのメーカーである協和(株)が主催した「ジャックと豆の木コンテスト」へ参加したもの。なんと水耕栽培初心者の篠木さんが最優秀賞を受賞し、ハワイペア旅行券が贈られた。

【コンテスト概要】
2012 年 4 月～6 月までに同社の水耕栽培キット(ホームハイポニカ 402)を購入し、10 月末まで付属のトマトの種を使用した栽培を行った。

参加者全員の栽培の様子や表彰者など詳細内容は同社のホームページ上で公開している。
http://www.kyowajpn.co.jp/hyponica/homegarden/contest/elapsed_cultivation.html

一度に 107 個も収穫！

＜ハイポニカ水耕栽培について＞
協和(株)は1962年から水耕栽培の研究を開始、1966年から国内で水耕栽培プラントの販売を行っている老舗のメーカーで、1985年のつくば科学万博の政府館でトマトの放任栽培により一株から一万六千個の実をつけた【巨木トマト】を展示しました。この独自の栽培技術は国内外から多くの評価を受けています。
　特に同社のシステムは全ての作物や生育時期において、肥料の成分や濃度を変えず、常に同一濃度、同一組成で栽培ができるため、自動化、省力化が容易であると同時に、土栽培では不可能とされる栽培技術の標準化が可能であることが大きな特徴です。
植物が生育する環境を安定に保つことで、生理状態を高レベルで安定し、土での栽培や他の水耕栽培と比べて生育速度が速く、品質が高く、収量も多い特長があります。

巨木トマト
一株から一万六千個の実

＜会社概要＞
【代表者】　野澤　重晴　（ノザワ　シゲハル）
【設立】　1953年7月
【資本金】　9,600万円（グループ合計23億7千万円）
【事業内容】　プラスチック成型金型設計・製造、
・成型部品製造・販売
・水気耕栽培ハイポニカの設計・製造・販売
（ＵＲＬ）http://www.kyowajpn.co.jp/hyponica/

＜本件に関するお問い合わせ＞
ハイポニカ事業本部　広報担当
天野　督章（アマノ　トクアキ）
E-mail：t-amano@kyowajpn.co.jp
TEL：072-685-1155　FAX：072-685-7090